

2019 年度 自己評価報告書

星稜中学校

「成果指標」について	
それぞれの項目の成果指標は、学校生活アンケート（生徒対象）と学校評価アンケートの下記の質問番号の回答により、 A：できた (80%以上)・B：概ねできた (70%以上)・C：やや不十分だった (60%以上)・D：不十分だった (60%未満) の 4 段階で達成度を判断する。	
※ 学校生活アンケートの場合は「できている・概ねできている」を選択したパーセンテージ。	
※ 学校評価アンケートの場合は「当てはまる・どちらかと言えばあてはまる」を選択したパーセンテージ。	
生徒指導	① 学校生活アンケート ① ③ 学校生活アンケート ⑤ ② 学校生活アンケート ②・③・④ ④ 学校生活アンケート ⑥・⑦ 、学校評価アンケート ⑩
学習・進路指導	① 学校評価アンケート ①・②・③ ③ 学校生活アンケート ⑨・⑩ ② 学校評価アンケート ⑦
部活動	② 学校生活アンケート ⑪・⑫ 、学校評価アンケート ⑧

具体的な取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
生徒指導 — 基本的生活習慣の確立 —				
①	けじめある学校生活を送るために、登校時間を守り、授業開始のチャイムと同時に着席する習慣を身につけさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート ① 94% 遅刻してはいけないという意識はしっかりと持っており、遅刻する生徒は少ない。
②	明るく元気な挨拶、正しい言葉遣いの励行により、礼儀作法を身につけさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート ②・③・④ 平均 96% 部活動での指導もあって、日頃から元気のよいあいさつが大変良くできている。
③	掃除や身の回りの整理整頓に心がけ、環境美化に努めさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート ⑤ 89% 生徒自身の自己評価は高い。今後も校内の美化活動に積極的に励むよう指導する。
④	自転車マナー・ヘルメットの着用など交通法規を守り安全な登下校に努めさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート ⑥・⑦ 平均 98% 学校評価アンケート ⑩ 86% 4 月に実施している交通安全教室・自転車通学説明会により、交通法規や安全なマナーについては成果が表れている。
学習・進路指導 — 6 年間の一貫指導における難関大学への進学を目指す（1・2 年生） — — 高校へ繋げる基礎学力の養成（3 年生） —				
①	学力向上のために、習熟度授業・実力試験を積極的に実施するとともに、毎日の家庭学習を定着させる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	学校評価アンケート ①・②・③ 平均 71% 子どもたちのやる気を引き出し、学習活動に前向きに取り組んでいるという質問では、各学年とも高い評価をうけている。課題としては、不得意科目克服の指導を高める必要がある。
②	学習と部活動の両立を目指し、生徒がそれを実現できるように配慮し、指導するように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校評価アンケート ⑦ 80% 生徒は、しっかりと両立を目指して努力している。定期試験成績上位者の中にも部活動を行っている生徒が多数いる。
③	ICT 教育の導入により、タブレット PC を授業や家庭学習で活用し、学習の効率向上に役立てるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート ⑨・⑩ 平均 91% タブレット PC を一人一台ずつ持ち、ロイロノート等を用い、宿題や課題を行っている。各教科の特性に合わせて、効果的に利用できている。

部活動 ―全国大会の出場を目指す―					
①	部活動での全国大会出場を目標とする。	成果指標 A：4 競技以上出場 B：2～3 競技出場 C：1 競技出場 D：全国大会出場なし	A	野球部 全国中学校都道府県対抗野球大会ベスト 8 文部科学大臣杯全国大会出場(3 月)→中止 サッカー部 北信越中学校総合体育大会出場 スキー部 全国中学校スキー大会出場 トランポリン部 全日本ジュニア選手権大会(女子団体)3 位 全日本ジュニア選手権大会(男子個人)6 位、 (女子個人) 5 位 陸上競技部 北信越中学校総合体育大会 7 位 ゴルフ部 全国中学校ゴルフ選手権大会 男子団体出場 全国中学校ゴルフ選手権大会 女子個人出場 水泳部 全国中学校体育大会(高飛込) 7 位 北信越中学校総合体育大会(水泳競技)6 位	
②	部活動に対して十分な指導と支援を行なうことによって、生徒の技能が向上するとともに、人間的にも成長できるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート⑪・⑫平均 83% 学校評価アンケート⑦・⑧平均 79% 本校の部活動は、専門的な知識と経験を持った顧問が指導を行い北信越大会、全国大会へと導いている。	
生徒募集活動					
①	学校要覧及び学校案内はもちろん、生徒募集に関わるすべての企画において、中高一貫教育を柱とする本校の新しい教育活動の認知度が高まる広報活動を行う。 【生徒募集に関わる企画】 ＊学校要覧 ＊学校案内 ＊学校見学会 ＊学校説明会 ＊学校行事公開 ＊公開授業	成果指標 A：4 項目以上で達成できた B：3 項目以上で達成できた C：2 項目以下しか達成できなかった D：取り組めなかった	A	学校見学会(11 月)参加申込数 175 名。学校説明会参加数 216 名。参加数は増加しており、本校の新しい教育活動の認知度は高まっている。学校の説明会を知ったきっかけをアンケートで尋ねたところ、リーフレット・ホームページ・友人知人の紹介が上位を占めた。	
②	掲載情報の見直しを行った上で、Web サイト全体を中高一貫校に相応しいデザインに再構成する。新着情報の更新頻度を高め、緊急情報の発信等にも対応する。 【Web サイトリニューアル計画】 ＊中高一貫校に相応しい Web サイトにする。 ＊行事に関わる情報を、写真を添付して日々発信する。 ＊部活動に関わる情報を、こまめに発信する。 ＊保護者や外部の方々へのお知らせを、適宜発信する。 ＊緊急情報の発信に対応する。	成果指標 A：4 項目以上で達成できた B：3 項目以上で達成できた C：2 項目以下しか達成できなかった D：取り組めなかった	A	4 項目以上で達成できた。	
③	学校説明会と学校見学会の参加者合計 370 名以上、志願者 150 名以上を目指す。	成果指標 A：志願者 120 名以上 B：志願者 100～119 名 C：志願者 80～99 名 D：志願者 80 名未満	A	学校説明会・学校見学会参加数 391 名(前年比 117%)。志願者数 130 名(前年比 97%)。説明会・見学会の参加者数は目標数を達成できたが志願者数が 4 人減。学習面・部活面においての課題を検討する必要がある。	
④	小学校訪問・塾訪問を積極的に行い、関係強化に努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	小学校訪問は 5 月・8 月の 2 回。塾訪問は 9 回。塾の説明会で学校説明を行ったのは 2 回。塾での受けとめ方は好意的で、本校の取組に対する期待が感じられる。金沢育英センター・東大セミナーでは、星稜中学受験クラスの募集を始めた。	
《次年度における校務改善に向けて》					
中高一貫校として新しく歩み始め、3 年目を無事終えることができた。上記の評価報告では生徒指導、学習・進路指導、部活動、生徒募集活動と大きく 4 つの観点から報告されているが、総じて A 評価と結論づけておきたい。学校生活アンケートにおける高い評価に裏付けられた生徒たちの日頃からの努力はもちろんのこと、生徒募集活動における成果は何れも高い数値を残すものとなり、県内初の取り組みとしての先取り教育や、グローバルやサイエンスといった特殊なプログラムの内容、またそれらの実践と理解をより高いレベルに昇華するための ICT 教育などが一定の評価を得て、外部の方々に伝わっているものと理解している。ただ一つ、学校説明会・見学会の参加者が増加したにもかかわらず、志願者が若干名減少した点については、受験率の高い傾向のある学校見学会の内容・回数を充実させることで、生徒募集活動における大きな改善点としながら、今後とも、保護者の方々のご理解とご協力のもと、中高全職員が「チーム星稜」として、更なる教育改革に挑んでいきたい。					